

令和4年度がスタートしました。今年度は2コース6フィールドによる新たな教育体制に加え、夏の校舎移転と、将来を見据えた新生龍谷構築の大きな節目の年となります。

その過程を出来る限りリアルタイムに伝えられるよう、校長室からも日頃の「雑感」を簡単に綴ってまいります。ご笑覧いただけましたら幸いです。

One for all, All for one. No.98

R4.12.12 「スーパースターの登場に騒然！」

このたびご縁があり、サッカー日本代表も経験されたミッドフィルダー 本山 雅志氏をご来校し、本校サッカー部員に貴重なお話をしてくださいました。本山氏と言えば誰もが知るドリブルの名手で、コンサドーレの小野 伸二氏とともに日本サッカー界を牽引されてきた文字通りのスーパースターです。

お話での「技術を向上させるには、何より基礎の繰り返しが欠かせません。基礎の定着により精度が高まり、それが高い技術の土台となります。オフシーズンにしっかりと基礎を磨いてください。」という言葉に皆が共感していました。

一般の人には大舞台での華麗なプレーだけが印象に残りがちですが、そのプレーをいかなる状況でも発揮するには、「基礎」の地道な積み重ねが大切だということを改めて痛感させられました。それを実践し続けた本山氏の言葉だけに、生徒の心底に染み入ったことでしょう。

ご多忙の中、貴重な時間を作っていただいた本山氏に感謝の気持ちで一杯であるとともに、今後の本山氏のご活躍を学校をあげて応援させていただきます。



One for all, All for one. No.99

R4.12.12 「スポーツ関連職業別分科会」

放課後の時間帯を使い、スポーツ分野に特化した大学、短大、専門学校等による進路ガイダンスを実施しました。昨今はスポーツ関連の職種も多様化し、生徒の興味関心も強まっていることから、本校でも「スポーツ・メディカルフィールド」といった選択群を設けたほです。



一概にスポーツと言いましても、プロスポーツ選手をはじめ、インストラクター、トレーナー、体育教諭、理学療法士、作業療法士、整体師、鍼灸師、栄養士、スポーツアナリスト等、その職種は多岐に渡ります。

業務内容がより専門化されることにより、それに特化した知識や技能、資格が必要になってきます。各分野から専門のスタッフをお招きし、その

職種に就くまでの道筋を詳しくご説明いただきました。今後の進路を考えるきっかけにして欲しいと思います。

One for all, All for one. No.100

R4.12.14 「女子駅伝部壮行会」

今年度、11年連続の全国大会出場を決めた女子駅伝部の壮行会を校長室で行いました。

自己目標タイムの更新、怪我やコロナ禍での活動制限など、いくつもの試練を乗り越え、全国大会を手にしたチームの皆さんに改めて敬意を表します。

様々なプレッシャーを乗り越えてきた今の皆さんには、並みはずれた体力、強靱な精神力、そして優れたチームワークが兼ね備わっています。自分を信じ、仲間を信じて最高の走りを見せて欲しいと思います。

同時に、全国大会という大きな舞台に立つことの誇りを胸に、個人として、またチームとして「都大路を走り抜ける」喜びと楽しさも体感してもらいたいです。



One for all, All for one. No.101

R4.12.15 「高文連国際理解高校生の集い」



本校が当番校となり「令和4年度国際理解高校生の集い」を開催しました。コロナ禍の中実施の有無が懸念されましたが、支部専門委員の先生をはじめ、各校顧問の皆様、高校関係各位のご尽力により、ZOOMを利用したオンライン交流を実施することが出来ました。心より感謝申し上げます。

本事業は「活動や体験を通して国際理解を深め、国際社会の中で生き、活躍する力を養う」ことを目的としています。現代は、文化のみならず、政治、経済、教育、環境に至るまで、グローバルな視野で物事を考えていかなければならない時代です。

今回も多数の高校生、外国人留学生、ALT、先生方が参加され、日頃の活動や体験、考えや思いなどを英語で伝え合いました。



One for all, All for one. No.102

R4.12.19 「1年生で全道チャンピオン」

「負ける気はしませんでした」、頼もしいコメントを発してくれたのは高校柔道選手権66kg級全道チャンピオン 高谷 駿君です。お父さんの影響で4歳から柔道を始め、得意とする背負い投げや一本背負いを武器に、1年生ながら並みいる上級生や強豪を倒しての優勝！誠に恐れ入ります。青森県の出身ですが、本校の柔道部の練習環境や監督の熱い思いに触れ、本校での高校生活を選択してくれました。「どんな状況でも粘り強く最後まで諦めない」を信念に、年明けの全国大会に挑みます。本当にわくわく感が止まりません。

そんな高谷君が尊敬する先輩の一人が2年生の 熊谷 琥珀君です。今大会では惜しくも優勝こそ逃しましたが、全道3位の堂々たる成績を持ち帰ってくれました。しかし、本人



はこの好成績にも自分の未熟さを感じたそうです。「身体も技術も充実し、ようやく自分のスタイルが出来つつあるからこそ、この冬にもう一度基礎に立ち返り、立ち技から寝技への素早い動きなどをしっかりと身につけたい」と、早くも次の課題克服に余念がありません。自分に厳しく、常に向上心に燃え、日頃からしっかりとした生活を心がけている先輩の姿は、後輩たちにとって何より輝いて見えることでしょう。

日々成長し続けている生徒の皆さんの言動に、私自身も身の引き締まる思いです。

One for all, All for one. No.103

R4.12.19 「待ちに待った優勝！」

ここ数年、新型コロナの影響で苦渋を舐め続けてきた男子バスケット部が、秋季大会でようやく念願の支部優勝を果たしました。個々の力はもちろん、チーム力も確実にアップした男子バスケット部が、全道常連校を破っての優勝に学校全体が湧き上がりました。

2年生主将の竹原 秀大君は、「初の全道出場で強豪校を目の当たりにし、それらのチームと実際に試合ができたことがチーム力のアップに繋がりました」と、前回支部2番手で初の全道大会出場となった選手権大会での経験が勝因と語ります。最優秀選手にも選ばれた竹原君ですが、「コート内でのコミュニケーションを細かに行き、常にチーム全体の意思疎通を図りながら、組織的パフォーマンスを重視していきたいです」と、個人之力よりもチーム力の大切さを語ってくれたことが印象的でした。



その竹原君とともにチームを牽引するのが、同じく2年生副将の内海 祥翠君。小学校1年生の時に兄の影響でバスケットをはじめ、それ以来バスケット筋に心身を鍛えてきました。「将来は救急救命士として少しでも人の役に立てる職業に就きたい」と、日頃から文武両道に努めます。「高みを目指し、勝ち切るという強い思いで試合に臨んでいます」という言葉は、まさに今のバスケット部を象徴しているようです。

全道ではベスト4をチームの合言葉に、一つ一つのプレーにもますます熱が入ります。

One for all, All for one. No.104

R4.12.25 「ご支援に心より感謝申し上げます！」



全校高校駅伝が「たけびしスタジアム京都」を会場に行われ、多くの保護者の皆様とともに応援に行っていました。わずかに小雨の混じる空模様でしたが、スタート時にはすっかり晴れ渡り、この時季としてはまずまずの気温の中での開催と

なりました。

47都道府県の代表ランナーが一斉にスタートする光景には、緊張感だけでなく、そのハイスピードにとてつもない迫力を感じました。また、チーム全員の想いが込められた襷を繋ぐ姿に選手たちの深い絆を感じ取れました。泉主将を中心にこの一年間駅伝と真摯に向き合ってきたチーム一人一人の想いに改めて胸が熱くなります。

最終ランナーには順位こそつきませんが、47都道府県の代表校それぞれの熱い想いには順位などありません。どの学校の選手にも同じように大きな感銘を受けました。



女子駅伝部の皆さんには、今年も沢山の感動を頂いたことに感謝の気持ちで一杯です。

全国大会に係りご支援を頂いた多くの皆様方に、この場をお借りし心より御礼申し上げますとともに、引き続き、変わらぬご支援を賜りますようお願いいたします。